

 **日本システム監査人協会報****システム監査の新時代を迎えて**

日本システム監査人協会顧問
(有)エイビーシー 代表取締役
No.8 鈴木 信夫

業界の変化はめまぐるしく10年前など、どのくらいの昔になるでしょうか。

仮にシステム監査の意義を「コンピュータシステムの実施主体の責任者が、外部の不特定多数の利害関係者に当該システムの評価について説明する際、その説明を補完するシステム監査報告を第三者として提供するもの」とします。

説明責任、いわゆるアカウントビリティ(=結果責任)です。

都道府県など一部の自治体は業務全般について外部監査が義務付けられ、システム監査も、その中に入るそうです。当然で、自治体の監査委員の一人はシステム監査分野の出身者であってもいいのではないのでしょうか。

中央官庁のシステムについても「納税者」に対する説明責任はあります。会計検査院の局の一つは「システム監査局」であってもいいような重さではないのでしょうか。

民間のシステムについても、その良否は企業の存立に関わり、投資家に対する説明責任は財務諸表だけでは済まなくなっています。「セキュリティ」だけではなく、システム全般についての監査が要求されているのではないのでしょうか。

システム監査に、これだけの社会的責任があるとすれば、監査人にも相応の責任が課され、同時に公的な資格を賦与する必要も出てきます。

当協会の責務もますます大きく、いっそうの活躍が要請されてきている時代だと考えます。

S A A J 第72回月例研究会報告

日 時：平成12年3月24日

場 所：労働スクエア東京

講 師：富士通株式会社

企画本部企画部主席部長

田 淵 治 樹 氏

演 題：「情報セキュリティ技術の標準化動向」

No.750 畠中 道雄

講演要旨

1. 情報セキュリティ技術の標準化

システムのセキュリティは次の3つの枠組みで成り立っており、すべてが揃わないとシステムのセキュリティを確保することができない。

① セキュリティ管理の保証

管理者、業務実施者、運用者に対するセキュリティをどうするか。BS 7799という、人を中心とした管理・運用面のセキュリティ標準がイギリスで策定され実施されている。これをベースに、管理・運用面での国際標準化(名称：ISO 13335)の作業が進められている。

② プログラムの信頼性確保

信頼性確保のため、プログラムに焦点をあてて標準化したのがISO 15408。機能、品質、保守、運用などの面から信頼性を確保するための要件(枠組み)を規定したものである。

③ 安全な情報処理技術

相互接続性保証を中心に、データ処理の個別技術、例えば暗号化技術などをISOで標準化している。

2. セキュリティ実施上の問題点と国際標準化の意義

セキュリティを論じる時、総論では賛成しても、実際に装備しようとするとう投資効果が見えないために認められにくい。最近のハッキングの例などは、装備していく上での動機づけにはなるが、セキュリティはどこまでやってもきりがない。不安を募らせていけばきりがないので、どこが最低限のレベルか、これを装備しない限りシステムを運用してはいけないという

レベルを決める必要がある。そこでセキュリティ対策に関する標準化でこの問題を解決しようとするものである。

プログラムの信頼性という観点からみると、ISO 15408、ISO 13335は設計段階からかかわってくる。人の管理の部分も同じく広い範囲をカバーしており、相互に補完しながら設計から運用までの工程にかかわってくる。

① 情報セキュリティ管理ガイド

② 情報セキュリティポリシーの策定

システムごとにとどこまでリスクを許容するか、きちんと目標を設定する。

③ 組織面の対策

セキュリティ管理組織、管理者とその役割などを明確にする。

④ リスク分析

すべてのシステムについて同じように詳細な分析をするのではなく、メリハリをつけて分析すべきである。脆弱性の分析では攻撃力の定量化(大中小)が重要である。

⑤ セキュリティ対策の選択

人的対策、物理対策など、それぞれ具体的な対策を選択する。

⑥ 導入と実行に対する監視

監視対策を有効にするためには、コストや優先度の確認、運用業務担当者へ浸透させていく教育などが必要である。

⑦ 情報システムの検証

十分機能していることを検証する。

⑧ フォローアップ

システムが変わった時はもちろん、自分は変わらなくても環境が変わった場合にも対処する必要がある。他で起きている問題が自分のところでは大丈夫かを確認できるように、情報を収集する。

3. 情報セキュリティの評価基準

本格的に電子化されたデータが扱われるようになり、プライバシーにかかわる情報、ビジネス取引にかかわる情報などについて、対策は施しているが本当に大丈夫なのかという心配が出てきた。これは非常にむずかしい質問であり、ISO 15408が100%この問いに答えたわけではないが、1つの解を与えたと考えている。すなわち、開発・製造・運用にかかわった

資料を検査して、大丈夫と客観的な立場から宣言する。検査の対象物はセキュリティ基本設計書、プログラム仕様書、テスト仕様書などであるが、大丈夫の度合いに応じて対象物候補が変わってくる。求められる大丈夫の度合いをいくつかに分類して作られた基準が保証レベル(EAL: Evaluate Assurance Level)である。これはシステムの強度ではなく、どこまで検査するか、どこまでの確からしさを確認しなければならないかを表す指標である。公共性の高い認証システムのようなものは高いレベルの確認が求められる。ただし、開発面でも監査という面でも高いレベルを設定すると大変なので、それぞれのシステムにおいて最適＝必要最低限のセキュリティを確保することを目指す。

ISO 15408は現在運用されているシステムについてチェックすることもあり、その結果としてISO 15408に準拠したシステムを作ることができる。従って、非常に効果のある基準であると考えられる。

4. 情報処理システムのライフサイクルとISO 15408との関わり

ISO 15408は、セキュリティ対策はリスクがあるからやる、とうい観点で策定されている。だからリスクの分析が大事になる。正しくリスクを認識し、それに対して最適な対策をとるよう規定している。

運用管理面も大事であるという認識がある。コスト予算面を考えて、有効なものを採用していく。想定されるリスクに対して、採用されたセキュリティ対策が妥当なものであるかを厳密にチェックする形になっている。

5. セキュリティ評価基準(Common Criteria)の3つのパート

(1) パート1: セキュリティ基本設計書

全体の枠組を規定。実質的な作業の7割以上が基本設計書のチェックになる。重要なことは許容するリスクをどうするか、すなわち対抗する攻撃力を規定し、保護対象資源を識別することである。保護対象資源にどのような脅威が存在するか。また、人間系の記述がないと、基本設計書において対策がないことになる。評価・認証済みの信

頼性の高いセキュリティ要求仕様書を利用して基本設計書を作成する。これは利用者にとってもわかりやすい。

(2) パート2: セキュリティ機能要件 機能面を規定している。

(3) パート3: セキュリティ保証要件 品質面と保証レベル(EAL)を規定している。

6. ISO 15408に準拠していることの意義

- ① 異企業間ネットワークシステムへの参入条件
- ② 一般顧客へのサービス提供条件
- ③ 最低限の投資で有効なセキュリティ対策を実現
- ④ 社会的責任を果たしているということを宣言する意味
- ⑤ 製品販売の条件

7. 標準化対象の主な技術項目

- ① VPN (Virtual Private Network)
- ② リモートアクセス
- ③ セキュリティゲートウェイ (Firewall)
- ④ 異常事象監視 (Incident Management)
- ⑤ 侵入検知 (Intrusion Detection)
- ⑥ 問題分析 (Incident Analysis Scheme)
- ⑦ 識別・認証 (シングルサインオン)
- ⑧ 監査
- ⑨ データの秘匿/保全
- ⑩ 否認防止 (送受信、データ真正性)
- ⑪ 暗号鍵管理
- ⑫ セキュアメール

この中でも、④異常事象監視、⑤侵入検知、⑥問題分析の3点は、最も重視している。セキュリティはいかに保護するかも大事だが、ある程度、問題が起きることは覚悟しなければならない。もし、完全に問題が起らないようにしようとすれば、システムの利便性が著しく低下する。大事な点はそれをいかに早く感知し、対策を立てるかである。不正な行為には何らかの予兆があるはずで、そのために情報を収集するシステムを準備しておく必要がある。

t社システム監査普及サービスを終えて

森 広志

私が、t社システム監査に参加した経緯は、昨年7月に中部支部より参加者募集メールがあり、自分としてもシステム監査の実務経験を積みたいと思っていましたので思い切って応募させて頂きました。

私は、9月初旬の勉強会(監査テーマ・予備調査質問項目の検討)から参加しました。この時、名古屋ゆきの列車の中で澤リーダーとお会いし、お蔭で迷子にならずに目的の会議室まで到着することができました。システム監査はもとより地理に不明な私に、何かとお世話を頂き、本当に感謝しております。

当日は、鈴木理事から「情報システム監査実践マニュアル」に基づきシステム監査の説明を受けた後、監査メンバー、萬代副支部長(現支部長)他サポーター、t社殿関係者からなる、混合3チームに別れ議論しました。t社監査メンバーは、それぞれ異なる業種業態、経歴を持った方が集まっており、SAAJならではの可能な監査チームだと思います。

今回の監査テーマは、「情報化投資の有効性評価について」であり、あまり前例がないとのことでしたが、経営者なら何方でも「当社の情報システムが、経営戦略に対してどれくらい有効性があるのか知りたい」というのがズバリ正直なところだと思います。

又、依頼先のt社部長さんが、システム監査について「システムを人間に例えるなら、人間ドックに入れる気持ち」と仰っていましたが、この「情報システムに対する愛情表現」が、システム監査普及に欠かせない原動力では?と思いました。

いよいよ準備も整い、ヒアリングが開始されることとなりました。今回のメンバーは、東京のHNさん、静岡のHRさん等、遠距離の方もおられます。私も朝4時に起床し、富山駅で名古屋ゆきの始発(しらさぎ)に乗ります。途中、米原の新幹線乗車時に澤リーダーにお会いし、集合場所まで無事にたどり着く事ができました。全員そろい、電車とタクシーを乗り継ぎ、目的のt社へ10時前に到着しました。ベテランの澤リーダーはもとより、メンバーの内半数は何らかの形でシステム監査を経験されています。私は初めてでしたので多少緊張しました。又、質問者と書

記を役割分担するヒアリング方式も新鮮に感じました。

その日は夕方まで、情報システム担当責任者4方のヒアリングに立合った後、本調査や関係資料閲覧についての検討を行いました。

次に、本調査ですが、議論の結果、2回の実施となりました。1回目は①有効性の制約条件(信頼性・安全性等)確認の観点から情報システム運用部門、②ユーザ満足度の観点からユーザ部門やユーザ情報を入手可能な関係部門が対象となりました。

2回目は、③事業貢献度や④投資効果達成度の観点から、経営企画部門、情報企画部門、が対象となりました。又、情報システムの有効性評価ということで、調査範囲は経営層からユーザまでと広がる傾向があり、ヒアリングの他にアンケートも活用されました。

本調査は要約すると以上のようになり、あながちメンバーで行っていた手探りの議論は、的を外していなかったと考えます。又、澤リーダーのリーダーシップにより常にアットホームな雰囲気の中で、興味深く楽しく議論ができたこともテーマ解決の貢献として大きかったと思います。この間、情報システムの有効性や費用対効果等に関する論文・資料を収集しました。この中で、有効性評価モデル、ABC(活動基準原価計算)、ITガバナンス等については、システム監査報告書の添付資料となりました。

次にシステム監査報告書作成ですが、これも名古屋で2回検討会を持ち、その後自宅へ担当分の宿題を持ち帰り、t社監査チーム専用メーリングリスト(中部支部の原顧問作成)に、担当分(WORD 95に統一)を提出します。パソコンも得意な、Oさんは、サーバ負荷軽減のため報告書のファイルを圧縮形式で送信するので、私も、ファイル解凍/圧縮ソフトをインターネットからダウンロードし利用しました。担当分報告書のボリュームはNさんが最も大きかったのですが、そこはさすがにSAAJ会員、全員納期前迄に纏めました。

又、担当報告書を取りまとめた全体報告書については、t社監査チーム専用メーリングリストに掲載された添付ファイルを、コメントを付け足しながらグループ校閲をしました。グループ校閲のやり方は決めていませんでしたが案外良い方法ではと思います。

とにかく監査チーム専用メーリングリストは役に立ちました。この間、緊迫の2000年1月1

日を迎えたことも思い出の一つです。

ついにシステム監査報告会の日がきました。もちろんメンバー全員が出席しました。

この日は、富山では一昨日まで雪が降っており道路氷結の恐れがあるため大事をとって朝3時に起きました。気温は-4度でしたが晴天に恵まれ列車の遅れもありませんでした。

システム監査報告会は、t社殿から専務取締役以下5名が出席して行われ、澤リーダーがシステム監査報告の総括説明を行い、各メンバーが報告書の担当分を説明しました。特に、紅一点の若きU嬢が、自信を持って丁寧に説明されていたのが印象に残りました。

今回のシステム監査報告内容は、指摘事項より改善案のウエイトが大きく、情報化投資の有効性評価についての道筋が示してあり、t社殿のみならず情報システムのPDCA管理サークルの運用に対し、示唆を与えるものと考えます。

最後になりましたが、t社システム監査に参加させて頂き本当にありがとうございました。お蔭で多くの収穫を得る事が出来ました。澤リーダー、t社監査チームメンバーの皆さま、サポータの皆さま、本当にありがとうございました。又、終始SAAJを全面的に信用し、システム監査に協力頂いたt社k部長さんの進取の気性には尊敬の念を抱きました。

このような方があってこそ、システム監査が普及すると思います。

又、機会があれば、ぜひシステム監査普及サービスに参加したいと思います。SAAJの皆さま、そのときはよろしくお願いいたします。

t社のシステム監査を終えて

No.4 澤 貞夫

1. 依頼があった当時のこと

昨年正月明けに当時の中部元支部長からシステム監査の依頼が2件来ている。どうしたものかという相談が支部内の模擬監査(当時の名称で現在はシステム監査普及サービス)経験者であった。

取り敢えずお話を聞くことにした。それも同じ日にa社は所在地のT市へ、そしてt社は名古屋で。a社は急がれているので先に進めt社はa社が終わってからスタートすることにした。a社については中部支部で必要な監査人を

集めることが出来なかったので事例研をお願いした。(a社については会報にて紹介済み)

監査人の募集は中部支部以外に事例研及び近畿会にも案内をした。結果は事例研から2名、富山県から1名の参加を得た。問い合わせも2件あったが時間調整がつかず断念された。

2. 依頼人のこと

依頼人であるt社取締役情報システム部長さんからグループ会社のシステムの面倒も見なければならぬ。その時にはシステム監査も視野に入れたい。についてはSAAJ会員が社内にいることであるから1度受けてみたいし、部長さん自身も永年に亘り情報部門に在籍し自分の考えで情報化を進めてきた。そのことを1度外部から評価してもらいたいということであった。

また部長さんの永年の豊富な経験は雑誌記者も認めるところであり今回も、部長さんの話としてコンピュータ雑誌にも記載されていた。これは我々にとってかなりのプレッシャーとなった。

――ここで余談を1つ――

「模擬監査」という表現は受ける側からすれば何かモルモットの感がある。もう少し適切な表現はないものかという問いかけがt社よりあり関係者で案を考えて事例研で検討し、t社からは「システム監査普及サービス」に改称することになった。

3. 講習会をやったこと

今回の監査人は中部支部で顔を合わせている人以外も参加されており、システム監査のレベルを合わせるために事例研に実際のシステム監査の進め方の講習会をお願いした。講師はベテランの鈴木理事にさせていただくことが出来た。講習会の内容は実践セミナーに準じた内容で10時から17時まで約6時間コースであった。

t社からは依頼者である情報システム部長さんと監査室長さんのご参加までいただいた。

これは監査人どうしの相互理解に非常に有効であった。経験にばらつきがある場合は講習会をお薦めしたい。

4. 監査テーマで苦勞したこと

当初は基幹業務の有効性を評価すればよいと思いきや途中で「基幹業務を例に有効性評価の方法」の「有効性評価の方法」の部分の視点が抜けていることに気が付いた。

個別の有効性評価についてある視点であれば比較的やりやすいが全体的となると視点が多くなりすぎるし、まして「評価方法」となるとこれだけで1冊の本でも書ききれないボリュームである。

今回も参考文献を色々漁ったが何れも評価方法の1つではあるがこうやれば評価出来ますという方法ではなかった。

5. 監査人のメンバーのこと

富山県からのMさんはt社に10時入ろうとすると自宅を4時過ぎに出立しなければならなかったし、事例研のHNさんも自宅が東京で出発が6時過ぎとのことであった。Uさんは主婦業も兼ねておられt社の訪問日が土曜日といえどもやりくりが必要でした。

でもそんな中で皆さんのバックの業務経験が多様であったため多方面からの議論ができ、それが報告書に活かせたと思います。

1人でなら自信のない報告しか書けなくても、多くの知恵を集めれば立派な報告が書けることを今回実感しました。

6. 監査人として参加する時のこと

監査人として参加された方には最初に申し上げたのですが、3回は経験してほしい。1回目は見習いのつもりでも途中からはもう1人前、2回目からはリーダーは何を考え何をするのかを学び、3回目はリーダーとして参加する。皆さんの力からすると2回目まででシステム監査としての経験を積むには充分であるが3回目はお礼奉公である。是非とも3回までは積極的に参加して欲しいと。

システム監査と言えども普通のPDCAの管理サイクルを廻します。Dの部分だけでシステム監査は行えません。Pの準備と結果のC・Aで次に結びつきます。依頼先を訪問するのはDの部分だけですがP・C・Aがあって始めて成り立ちます。今後監査人として参加される場合にはこのことを念頭に置いて参加の意思表明をしていただきたい。

7. リーダーとしての感想

監査人メンバーの業務経験が多様であったことから皆さんと多くの議論が出来ました。これがSAAJの特長かとも思います。1つの見方で全てをはかるのではなく多方面からの見方が出来ること

がシステム監査には必要条件であります。

これは会計監査のように守らねばならない基準がある監査との違いかと思えます。それでも解釈の違いがでるそうです。

社会変化に合わせたシステム監査をやるとうとする時、1人の持っている知識には限度があります。

システム監査はシステムそのものを対象とするとお考えの方には今回の監査テーマに異論はあろうと思えます。その意味ではコンサルに近いテーマでした。

この件については個人的な意見であることをお断りしたうえで、情報化・システム化に関するあることについて誰もが認める考え方・方法論及び基準がないとか未だ議論の過程にあり方向が出ていないからと言ってシステム監査の範疇でないとは私は思わない。情報化・システム化について、誰も何処もしていない議論なら我々日本システム監査人協会が議論しその結果を公表すべきと考えます。システム監査基準に則った事だけをやるのがシステム監査とは思いません。基準に足らざるがあればそれに足す事の出来る知識と経験があるはずで、それを出すこともシステム監査と考えます。

「サポータ」とは依頼先への訪問はしないが報告書だけに参加する人をいうことを始めて知りました。t社の場合もサポータをお願いしました。何れの方もベテランの方で適切な時期に適切なアドバイスを頂きました。ありがとうございました。でもリーダーの立場から訪問できないからサポータとしての参加をするというのはクライアントのことを考えるとき守秘義務から見ても望ましくない。サポータはリーダーが依頼した人を言うべきと思いました。

8. 最後に

我々に経験の場と議論の場を与えていただいたt社様にお礼申し上げます。

このシステム監査に当たり多くの人にお世話になりました。講習会の会場を見つけてくれそして差し入れまでして頂いたSさん、内部検討会の場所を提供していただいたある会社さん、講習会講師をしていただいた鈴木理事及びサポータをお願いした事例研の方々及び中部支部の関係者にお礼申し上げます。

明るいシステム監査

No. 790 大庭 晋

(1)なぜ、システム監査に参加したか？

もちろん、健全な情報化社会の実現のためです。使命感というんですかね？なんて、大嘘。「実際の監査って、どのようなものか？」、「他社の情報システムを、なるべく近い位置で見たい！」という、単なる好奇心から参加しました。

(2)監査前半戦

前半では、テーマが絞り込めず苦勞、苦勞。しかし、逆に非常にやりがいを感じたのも事実です。T社にとって有用なテーマは何か？を考え続けました。「情報システムの有効性の評価の監査」がテーマになったのは、T社およびメンバーの熱意の現れであると感じました。(個人的には、難しく、少し後悔しました……)

(3)監査後半戦

「情報システムの有効性の評価の監査」がテーマになったものの、どう切り込んでいくか？また、T社さんの有効性評価に対する現状を、どのような視点で整理／報告していくか？が焦点でした。5W1Hの設定、PDCAサイクルを確実に実行することなど「有効性評価も企業活動の一つだ」という視点でまとめられた監査報告書は、説得性を持ったものだと思います。

(4)明るいシステム監査

友人にシステム監査を行っていることを話すと、「監査？監査って、なんかスーツ着て監査する会社行って、書類とか持ってかえるの？」。どうもシステム監査は、まさに東京地検特捜部の「討ち入り」イメージ(少し暗い)。私も監査を行う前は、これと大同小異でした。しかし実際の監査は、分析し、議論し、問題点、改善提案を出す非常にCreativeでExcitingな作業でした。その過程は、しんどいものでしたが、非常に刺激に満ち楽しいものでした(明るいシステム監査！)。

(5)最後

今回の機会を与えて頂いたT社さんには、心から感謝したいと思います。諸先輩の指導の下、なんとか最後までがんばることができました。個人的にも少しパワーアップした気がします。次の機会があれば、是非仲間に入れてください。次はもう少し活躍します？往復の電車でも、景色に見とれず(いつもは、地下鉄なもので...)ちゃんと資料を読みます。

はじめての監査をおえて

No. 795 植野 真由美

長期に渡る監査、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

システム監査について、テキストでしか知らなかった私には、ほんとうに貴重な経験をさせて頂きました。監査を進める上で行った、t社の方々や監査メンバーの皆様とのヒアリングや打合せ、討論は、とても興味深く、有意義なものでこのメンバーに入れて頂いて本当にラッキーでした。(あまりお役に立てなかったのに、自分だけラッキーなんて……)

監査そのものについては「有効性の監査」という難しいテーマで、報告内容としては、こちらの伝えたいことが言えたと思います。しかし、依頼者が本当に望んでいたことと合っていたのか少し不安を感じていましたが皆様のおはなしで少し安心できました。

t社殿のお話にありましたが、一般的に「システム監査」というと厳しいイメージがあり、「強制されなければやりたくないもの」というように取られていると思います。コンサルなら受けたいけれど、というのはもともとで、今後のSAAJの課題かなあと思う植野でした。

システム監査普及サービスを振り返って

中村 博

昨年8月末のTOPヒアリングから始まって早いもので半年になろうとしている。最初は正直、不安だらけであったが、報告会まで無事迎えた時は、感無量だった。

普及サービスへの取組を通じて痛感したのは、「三人寄れば文殊の知恵」だった。様々な職種の上には、スキルの高い人たちがばかりなので(中村除く)、当然かもしれないが、暗中模索の状態から報告書が出来上がっていった過程は今思い出しても、感動的でさえある。

私はあまり貢献できなかったが、お客さんは良い方ばかりで、作業は順調に進んだし、報告会当日は内容に満足していただいているだろうと納得したりで、いろいろとラッキーだったという気分だ。(自身のスキル向上も含めて)「監査」という表現には顧客側に抵抗があるようだし、今回澤リーダー一人にかなりの負担を強いてしまったという後悔が残るが、普及サービスが存続する限り、改善されていこうと期待している。

新入会員の一言

わたしと「資格」

No.905 三好 康之

はじめまして。本年1月に入会させていただきました三好と申します。私は、ソフトウェア開発を主業とする企業で、情報システムの販売をしている営業マンです。システム監査以外にもシステムアナリスト、中小企業診断士等の資格を保持していますが、それらの資格を直接生かして仕事をしている訳ではありません。情報化に関わる資格制度が現在の状況であれば、私と同じような立場の方は多いと思います。そこで、今回は、私が「資格」というものをどのように活用しているかについてご紹介させていただきます。

最もよく感じるのが「ハロー効果」です。単に資格を持っているだけで、きっと仕事ができるのだろう、きっと頭がいいのだろうと思われま。それらが事実かどうかは知りませんが、「そう思われる」という事は、とても都合がいいものです。この(そう思われるという)事が、自信を与え、言葉に説得力をもたせ、情報を集めてくるという効果をもたらします。或いは、それらの事が事実ではないと評価される恐怖感が、より一層努力させ、成長させるという副次的効果をももたらします。

また、資格というものは、取るよりも取ってからのの方が重要なのは言うまでもありません。体系的に知識を取得する事が資格制度の目的であり、それを自分の中で消化し、活用してはじめて意義のあるものになってくると思います。

このように、私は「資格」という物を活用しています。それは、意識改革後に踏み出した私の第一歩に過ぎません。今後、まだまだ厳しい状況は続くと思います。会社と個人の関係も変わってくるでしょう。その事を認識し、サラリーマンであるがゆえに忘れがちな「危機感」を持ち続けていこうと思っています。

システム評価基準についての悩み

No.906 西村 一郎

平成12年度に新規会員となりました西村です。システム監査に携わったのは、私が銀行の事務部で責任者だった頃です。大蔵検査および日銀考査でシステム監査が必須となり暗中模索で検

討したことがきっかけですが、当時は検査官も勉強中の状況で、お互いにマニュアル片手に一緒に勉強したことを思い出します。

私の経歴を簡単に紹介させていただきますが、大蔵省に在職中にコンピュータと初めて出会いました。最初は機械語でプログラムを作成しましたが、すぐにアsemblerが出てきて、こんなに便利なものかと感激したことを思い出します。自分に合った仕事に巡り合った感じで、本格的に勉強するためにユニバック(現ユニシス)に入社し、すぐに金融機関のオンラインシステム開発を担当しました。当時はSE不足でいきなりユーザーに派遣され、一緒にシステム開発を実施しましたが、どちらの社員か分からないような状況で常駐し、本番稼働と一緒に祝った楽しい思い出があります。当時は文字通り死ぬ思いでしたが、仲間を失った悲しい経験もしました。

その後、私自身も身体を壊しましたので、地方銀行に転職しユーザーとしてオンラインシステム開発を行ってきました。メーカーとして経験を積んできた積りでしたが、ユーザーの立場で開発に当たりますと、業務の本質を把握していなかった事に気づかされました。そのため、経営的な観点、マーケティング的な観点から業務を見直してシステム化を考える必要があり、システムとは何かを改めて勉強しました。それがシステム監査的な発想であることに後で気がついて、確認の意味でシステム監査技術者の試験を受け昭和62年の試験で合格し、システム監査の重要性を改めて認識した次第です。

家庭の事情で東京に戻る必要があり、当時導入していた端末機メーカーに再就職し、UNIXを中心としたクライアント・サーバーシステム、分散処理システムの企画・開発を経験しました。

高槻市長の事例ではありませんが、家内が病弱になり、ある程度の看護が必要となりましたので独立し現在の会社を設立しました。この時点からシステム評価、提案の仕事が多くなり、再びシステム監査のあり方を勉強してきました。

ここ数年は官庁関係のシステム調達に係る提案評価実施が多くなっています。社会的な要請、外圧等もあって競争入札による調達が飛躍的に増加してきたときですが、入札では調達先決定の妥当性、公平性および納得性が重要な要素になります。システムに関しては客観的な評価基準がありませんので、最低価格を設定することができず、会計法からの制約で最低価格による落札しかできません。提案内容で落札を決

める方法として総合評価方式がありますが、これも価格のウエイトが高く、妥当なシステムを調達できない悩みを持っています。現在、電子政府の検討がされていますが、行政情報化を進展させ、国際的な対応を進める意味でも調達方式の改善を推進していただきたいと願っている次第です。

入会にあたっての一言

No.910 栗山 洋一

皆様はじめまして。この度、日本システム監査人協会に入会させていただくことになりました。栗山です。

簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれは、京都市です。ただ、里帰り出産であったので、小学三年まで東京都板橋区にいました。その後、父の転勤の関係で、中学二年まで京都府乙訓郡向日町(現向日市)、その後大津市に住んでいます。

大学では電子工学科で、半導体物性の研究をしていました。しかし、コンピュータとの付き合いは古く、小学校の卒業記念誌で将来の職業欄に、「コンピュータを使う仕事」と書いています。FM-7というパソコンを買ってもらい、雑誌の付録についていたインベーダゲームやパックマンなどのゲームソフトのヘキサダンプコードを打ち込んで遊んでいた記憶があります。

その後、大学時代では測定データの処理等でミニコンや大型計算機を使っていました。当時は、紙テープやパンチカードが主流で、ラインエディタから現在のように画面上でプログラムの修正等ができるようなエディタが出始めた頃でした。

会社に入ってから、計測器の制御やデータ処理のためにミニコンや大型計算機を使っていました。その後、ワークステーションが現われ、Sun3の頃からUnixを10年以上使っています。インターネットの普及に伴い、Ciscoルータを使ったネットワークの管理等々も行っています。

コンピュータの利用形態の変化に伴い、システム監査に対する考え方や手法も変化していくものと思います。実際に監査を行ったことはありませんが、常に最新の情報を身に付けておきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひします。

入会にあたってのごあいさつ

No.911 塩尻 康夫

はじめまして、塩尻康夫と申します。2000年2月に個人会員として日本システム監査人協会に入会させていただきました。もともと、システム監査技術者を含む情報処理技術者に興味を持ったのは、10年あまり前、コンピュータなどの予備知識が全くないまま、EDP部署にいきなり配属され、毎日悪戦苦闘するなかで、体系化された知識を身につけたいと強く感じたのがきっかけでした。その後1994年に情報処理システム監査技術者試験に合格しましたが、その時には既にEDP以外の部署へ異動しており、情報システムやシステム監査とは全く異なる仕事をしてきたため、せっかく試験に合格したのに継続して知識を深めようとすることもなく、過ごしてまいりました。しかし、最近になって、企業・組織内での自分の所属にかかわらず、システム監査や情報セキュリティの知識を深めていくことが一個人としても大変重要になったと思うようになりました。たまたま、昨年一年間、システムインテグレーションを行なっている他企業に出向し、最近の情報技術について基礎から学ぶ機会を得ました。また、UNIX等のシステム・ネットワーク管理者のための技術講座を個人でも受講し(システム監査技術者受験時以来の久々の情報システム関連の受験勉強でした)、少しずつではありますが、自分の知識のベースができてきたと思うようになりました。そこで、これを機に、もっと自分なりにこの分野の知識を深めたいと思い、当協会に加入させていただいた次第です。

このように、ほとんどビギナーの新会員ですが、研究会等に積極的に参加させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

No.912 安藤 秀樹

1999年10月のシステム監査技術者の試験で合格し、このたびSAAJに入会いたしました。入社後しばらくして、システム監査の試験を知りましたが、何だかずっと敷居の高いもののように感じておりました。

日本アイビーエム入社当初は、研究所の情報システム部門に所属し、機密性の高い情報を管理する立場にあり、RACF(Resource Access Control Facility)を用いたシステム管理を行っていました。その後、情報システム部門が分社化

してS Iビジネスをてがけるようになり、製造業の設計部門における技術情報管理システム(PDM)の構築に関わっております。対象データは、技術資産ですので、常にそのセキュリティを検討する必要があり、アクセス管理を中心としたセキュリティの機能を組み込んでいます。

このように、セキュリティ機能については業務を通じて接しておりますが、PDM構築もインターネットを介したによる取引先や顧客との情報共有を図る上でネットワークセキュリティの管理も重要になってきています。またシステム監査の立場での経験はほとんどありませんが、プロジェクトマネージャの立場からも、開発プロセスの明確化とその作業品質の評価も重要であり、システム監査の勉強の必要性を感じ始めていました。

日頃の業務は、S Iプロジェクトのマネジメントおよび業務分析、システム設計などに携わっておりますが、より高品質のシステム構築を提供する上で、これから本格的にシステム監査についても勉強しなければと思います、このたびSAAJに入会致しました。合格ただけで終わりにしたくはありません。公私共に忙しくなかなか時間は取れませんが、今後ともよろしく願いいたします。

No.914 山根 徹

初めまして。私は、平成11年度のシステム監査技術者試験の合格を契機として、システム監査人協会に入会しましたが、本職は公認会計士業務です。現在は、中央青山監査法人グループの関係会社のコンサルティング会社に勤務しています。システム監査人協会にも、多数の公認会計士の方がおられると思いますが、私自身は、現在従事している業務は、システム監査と全く関係ありません。にもかかわらず、当協会に入ったのは、何か面白いものがあるのではないかと、という単なる好奇心のみです。そうは言いつつも、最近、システムの監査というよりも価格評価という点で、いろいろ考えさせられる事態に直面しつつあります。昨今、新聞でも取り上げられることが多いのですが、銀行における基幹業務の共同化センターの設立など、自社開発のシステムのアウトソーシングが進みつつあります。と言いつつも決して新しくすべてを作るのではなく、ある銀行のシステムを共同化センターに移すケースが多いと思われます。この場合、大規模なシステムを会社から会社に譲

渡する必要があるのですが、では、システムがいくら?となると問題となります。最後は、当事者間の合意によるのですが、そもそも出発点になる合理的な金額がいくら?これで税務は大丈夫か?などいろいろ問題が出てきます。過去、日本企業では、小規模なシステムの譲渡はあっても、銀行の勘定系のシステムのような大規模システムの譲渡は、ほとんどなかったのではないのでしょうか。小規模の場合であれば、金額が大きく評価される再調達原価(機能の同等性ではなく、譲渡対象と同じものを今、同じステップで作上げたとした価格。)を使用しても、そもそもの評価金額も小さく、問題が少ないのですが、大規模システムでは、評価金額及び方法のあり方で当事者間の交渉や税務上の問題が大きくクローズアップされてきます。M&Aが増加しつつある状況を考えれば、普通の企業でも、この事態は加速していく可能性があります。はっきり言ってやや苦慮しているというのが現状です。そういう状況に対して、システム監査には関係ありませんが、開発メーカーや公認会計士がおられるシステム監査人協会でシステムの価格評価基準を出すのも、社会的意義があると思うのですが、いかがなものでしょうか。

No.916 吉野 道明

会員番号916の吉野道明と申します。昭和37年8月1日生まれです。職業は税理士で豊島区池袋で事務所を開いています。

私がシステム監査を知ったのは今からちょうど10年前に税理士試験に合格したときです。大学時代からパソコンに興味を持っていましたがその当時、今後コンピュータ時代が到来しシステムの安全性が問われると思いシステム監査の試験を受けようと思っていました。しかし年齢制限や業務経験の問題があって、また本業が多忙になり諦めていました。しかし、昨年40歳を目前にし、一念発起しシステム監査の試験に臨む事にしました。

税理士がシステム監査が必要かと思われる方もいると思いますが、我々税理士が関与している中小企業は、やみくもにコンピュータを導入したり、セキュリティについての知識もない、そんな企業が多いのです。インターネット時代になってインターネットの根幹を構成するのは大手企業のシステムかもしれませぬ。しかし、それに接続するのは多くは中小企業だと思いま

す。つまり、インターネット時代だからこそ、中小企業のシステム監査を実施する必要があると思います。では、その中小企業のシステム監査は誰がするのが適任かと考えればやはり中小企業にとって身近な存在の税理士が行うのが良いと考えます。

税理士の業界はコンピュータ化が非常に遅れています。確かに多くの事務所でコンピュータを導入しています。けれども多くは財務オフコンを利用して、かつその導入には業者任せの事務所が多いのが現状です。また、税理士の平均年齢が非常に高いのも一要因でもあります。

そんなギャップの中で、システム監査を皆知り、その重要性を解って実施して行けるように努力して行きたいと考えています。

このような私ですがシステム監査の知識は不十分です。会員の皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

No.918 阿部 浩義

協会の皆様、はじめまして。今年2月より、システム監査人協会に正員として入会させていただきました。阿部と申します。

現在は、(株)電通国際情報サービスに在籍しております。製造業を営まれる御客様に対し、PDMパッケージを用いた、主に製品開発領域の業務および情報システム構築のコンサルティングを行っております。

現在の会社に入社する前には、ビジネスコンサルティングファームに在籍して、やはり製造業の御客様を主として情報システム化計画立案・構築実施などの御手伝いをさせていただいておりました。このような職歴でありますので、業務や情報システムの診断については独学に近い形で学習し、コンサルティング現場からのフィードバックを学習の糧としており、正直なところ、今まで情報システムの「監査」というところをあまり強くは意識しないでおりました。

しかし、昨今はネットワークというインフラのみならず、ビジネスモデル自体がオープンかつグローバルに変貌してきております。セキュリティの問題に加えて、企業相互間の情報連携性能など、目を付けなければならない項目が日々増殖しており、このような項目の網羅および効率的なチェックと対応について、もっと、体系的に把握していかなければならないのですが、ここまですると個人的学習だけではスピードに追いついていきません。体系的なシス

テム監査技術の習得と同時に日々改良が必要だと感じております。

本協会では、できるだけ積極的に多くのことを学ばせていただくことになるとと思いますので皆様、どうぞよろしくお願いたします。

一方、製造業の開発領域への業務設計・構築などは少ないながら経験がありますので、情報をご提供できることもあるかと思っております。

拙文ですが、入会に際してのご挨拶とさせていただきます。

No.920 伊藤 幸一

皆様、はじめまして。この度、準会員として入会させていただくことになりました。

最初に簡単に自己紹介させていただきます。平成2年に第一生命に入社し、11年めになり、入社以来情報システム部門で勤務しております。現職は情報システム関連会社に出向し本体の資産運用関連システムに関する開発・企画等を行っております。金融機関においては業務面で日本版金融ビッグバンに代表されるように様々な改革が行われる一方、ITスキルの方も日進月歩で進化しており、業務・ITスキル両面において専門性を追求したスキルアップが求められる状況になりました。そのような状況の中でシステム監査に関するスキル習得にもチャレンジしてみようと考えました。

現在、私は業務パッケージ導入のプロジェクト・リーダーをしています。業務パッケージ導入のためのシステム基盤構築では、セキュリティに関して、相当厳しくチェックが入っています。また業務面でもパッケージがシステム監査に耐え得るかという観点からも検証する必要に迫られてきました。従来まではPM、AE等、開発する側の論理で物事を考えれば、比較的、事足りていましたが、チェックする側の視点も考慮した上で開発を行うといった姿勢の必要性を痛感している昨今です。

本協会での活動を足掛かりにして、システム監査の基本的手法を習得し、今秋のシステム監査技術者試験にチャレンジし、暗れて正会員になりたいと考えています。また先々はシステム企画業務にも積極的に取り組みたいと考えているため、システム企画業務に関する監査にも非常に興味があります。まずは5月のシステム監査実践セミナーに参加させていただくことになっています。今後とも宜しくお願い致します。

S A A J 入会にあたって

No.926 細 正俊

1. 自己紹介

はじめまして、細と申します。この度、日本システム監査人協会に、準会員として入会いたしました。私は、株式会社富士通ソーシアルシステムエンジニアリングに勤務しています。会社ではフィールドSEとしてシステム設計を行っており、最近、社内の特許活動の推進も行っています。

2. 入会のきっかけ

まず、私が入会するに至った経緯についてお話しします。昨年、アプリケーションエンジニアを受験し、あまり自信はなかったのですが、何とか合格いたしました。理事の原田さんが主宰しているHPの論文対策を見てすぐ参考になったこともあって、お礼を兼ねて合格したことを報告しました。それをきっかけに当会への入会を誘われた次第です。それまでは、システム監査に関して漠然とした興味しかありませんでした。しかし、これを機会により理解を深めたいと思い入会いたしました。

3. 入会にあたっての抱負

私はまだシステム監査試験に合格していませんので、その合格が当面の目標です。

システム監査に関して、ユーザの理解と協力が不可欠だと思います。経営者はともかくとして、現場の担当者は日々の業務をこなすのに精一杯です。監査業務というのは、そういう状況でも毅然と行なう必要があり、厳しいことも言わないといけないし、認められるためには一定の成果が必要と考えますが、「システム監査の成果とは何か?」ということに非常に興味を持っています。

システム監査のノウハウを勉強するとともに、情報社会のより健全な発展にすこしでも貢献したいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

「入会にあたって」

No.927 宮崎 由子

情報処理サービス社に勤務し顧客向けのシステム開発に従事して15年程になります。従来は企業むけの会計や在庫管理などのいわゆる業務システムの開発を主に担当していましたが、最近ではグループウェアなどの情報系システムにかかわることも増えてきました。ここ1年ほ

どは業務システムと情報系システムとを融合させることによって、効率化やスピードアップを目指す例が一般的になっています。コンピュータシステムのダウンサイジングとネットワーク化とともにシステムの果たす役割や影響力が以前にくらべてずいぶん変わったと感じています。

最近では業務を改革するというよりも、経営そのものを変革するシステム構築を行う例がひろまりつつあるようです。伝票や元帳を電子化するのを目的としていた業務システムとは異なり、システム導入のコンセプト作りや企画のお手伝いをするケースも増えてきています。それとともに要求や技術要素は多様化し、システム開発の現場では要件定義や品質管理において考慮すべき点が以前とは比較にならないほど増えています。システム開発に携わる者としてシステム監査の事例や技法が開発管理の場面で参考になると考えています。協会を通じた最新情報の収集により、顧客のシステム構築に役立てたいと思います。

インターネットの利用が一般にひろまったことにより、私自身システムの利用者になる場面が多くなりました。ショッピングやオークションの利便性はつねづね感じるところですが、一般ユーザが使用するには決済や認証にはまだまだ課題があると思います。セキュリティ技術やセキュリティポリシーについては非常に興味のある分野です。今後しばらくは継続的にウォッチしていきたい項目です。私たちの仕事の影響力が増していると感じる一方、責任も重大と感じる今日この頃、情報交換の場として活用できれば、と考えています。

(ティアイエスソリューションビジネス株式会社大阪本社勤務)

入会にあたっての一言

No.928 山本 久雄

はじめまして、NTTコミュニケーションウェア株式会社の山本久雄です。

NTT入社以来、12年間ソフトウェア開発担当者として、パケット通信交換機や、セルラー通信交換機のソフトウェア開発に携わっております。

平成11年秋の情報処理技術者試験において、システム監査技術者試験に合格し、この3月に本協会に入会いたしました。

私がシステム監査に関心を持つきっかけと

なったのは、日々の業務において、「システム開発者として、システムの信頼性、安全性および効率性を高めるように努力しているが、本当に有効であるのか?」と、ふと疑問に思ったことでした。折しも、情報処理技術者試験の申し込み時期と重なり、どの資格に取り組むか考えていた時に、システム監査という文字が私の目に留りました。システム監査という言葉は以前から知っていましたが、この時初めて、システム監査とは、客観的な立場として、全社的な視点から情報システムを点検、評価、助言、勧告し、フォローアップすることであるということを知りました。今後も情報システムの企画、開発に携わる私にとって、有益なスキルになるであろうという安易な気持ちから、システム監査選択し、受験しました。

私は、試験には合格したものの、システム監査の実務はもとより、システム監査を受けた経験すらありません。あるのは、書籍等から得た知識、技術、能力だけです(システム監査技術者資格受験に際して、「情報システム監査実践マニュアル」が大変参考になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます)。

そこで、研究会やセミナー等への参加、諸先輩方との交流を通じて、自己のシステム監査スキルを向上させようと思い、本協会に入会いたしました。私が得たスキルは、今後、自己の業務等を通じて、健全な情報化社会の発展に向けて役立ててゆきたいと考えております。今後とも、よろしくお願い致します。

No.929 安井 昌男

私は、現在、ゼネコンのシステム部門において生産現場におけるシステムの企画・開発に携わっております。入社後、5年間の建設現場勤務を経てシステム部門に配属され、今年で13年目になりました。

この間に、ダウンサイジングとインターネットという2つの大きなパラダイムシフトを経験しました。そのいずれにも、大規模なシステム開発を通じて関与できたことは技術者としては幸運であったと考えております。

しかしながら、現在、我々ユーザー企業のシステム部門は、アウトソーシングやASP等のシステム供給形態の変革に伴い、その存在意義を根幹から見直さなければならない時期にきています。

これからはカスタムアプリケーションの「作り

手」やサービスの供給者としての役割よりも、外部サービスの「買い手」や「使い手」の社内代表、あるいは何をどのように買うかという企画立案部署としての役割が、一層、大きくなるのでしょうか。

企業内システム部門は、このような状況において、IT関連サービスの「買い手」の代表として、ビジネス上の付加価値を生み出さなければなりません。そのためには、サービスの「売り手」に対して、システムアドミニストレータとは異なる視点なり手法が必要になるように思いました。

そこで、私はその視点のひとつが「システム監査」ではないかと考え、昨年度システム監査技術者の資格を習得いたしました。

さて、そのような資格取得の動機はともかく、システム監査人協会には、微力ながらもシステム監査の普及や発展に関して何かのお手伝いができるならば、と入会いたしました。会員の皆様との交流等などにより数々の勉強をさせていただければと期待しております。

よろしくお願い致します。

『SAAJ会員の皆様へー新入会員として一言ご挨拶いたします』

No.930 大塚 純一

日本システム監査人協会の皆様、この4月に入会させていただきました大塚純一と申します。どうぞよろしくお願い致します。現在、日本アイ・ビー・エム株式会社でコンサルティングITスペシャリストとして主に中堅企業のお客様のセキュリティシステム構築やコンテンツエンジープランとしてのバックアップシステム構築のサービスを実施しています。

経歴は、入社以来20年間中小企業のお客様担当のSEとしてさまざまなシステムの提案や構築を手がけてきました。たとえば中堅証券会社のリレーショナルDBデザインによる業務系システム開発、大手レンタル会社の水平分散型システムの設計、最近では大規模なサーバ統合プロジェクト、ERPパッケージのセキュリティ設計などです。

数年前から、いままでの自分の足跡を振り返って自分なりに整理し評価したいと考えるようになり、色々模索した結果、システム監査基準という客観的な見方でまとめあげること、特に情報セキュリティの向上に活動の主眼をおくこととしました。

システム監査の意義は、独立かつ専門的な立場から情報システムの健康状態を保証する、あるいは欠陥や重大な問題があれば指摘する、というのが本来の趣旨でしょうが、私はむしろ情報システムの安定稼働の阻害原因を指摘しそれを取り除くための適切な助言や勧告、フォローアップに活動の重きを置きたいと考えます。

特にセキュリティマネジメントに関してはインターネットを中心にしたニュービジネスの急激な立ち上がりに代表されるように、安全性、信頼性の欠如によるITインフラの脆弱性が目立っています。

入会に際して、勉強のつもりでとにかく蒼々たる会員メンバーの皆様と出来る限り話しお話を伺い、切磋琢磨していきたいと希望しております。

本協会への入会にあたっては、協会理事の原田奈美さんにご相談したところ快く入会を勧められご支援いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

では、皆様今後ともよろしく願いいたします。

入会にあたって

No.932 小川 治

皆様はじめまして。小川治と申します。現在は、LANの構築・保守などを行っております。私にとって非常に難関であったシステム監査技術者試験も、ようやく昨年の試験で合格することができ、今回正会員として入会させて頂きました。

私が日本システム監査人協会の存在を知ったきっかけは、システム監査技術者試験のための情報をインターネットで検索していたときです。システム監査関連のホームページを探しているうちに協会のホームページにたどりつき、存在を知りました。

入会した理由は、システム監査というものを単なる資格や知識としてだけでなく、実践できるようになりたかったからです。私は、現在システム監査とは直接関係のない仕事をしています。これまでもシステム監査の経験がありません。そのため試験のための知識はありますが、実践で応用できるかどうか自信がありません。せっかく勉強したことでするので、単なる知識として終わらせないように、この協会に入会することを決めました。今後は、協会が実施する行事や、セミナーなどに積極的に参加して「システ

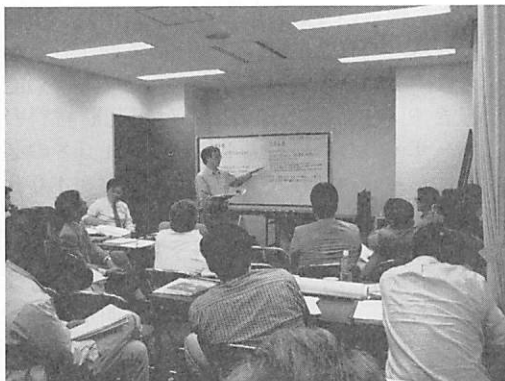
ム監査の眼」を養っていきたいと思います。しかし、システム監査試験を受けたことによる効果もありました。それは、システム監査の視点から、システムを第三者の立場で客観的に見ることができるようになったことです。これまでは一方的な立場でシステムを見てきたものが、ある程度距離を置いて客観的に見ることができるようになりました。

最後にこれから協会に望むことは、システム監査の認知度をもっと高めてほしいことです。システム監査というのは、他の資格などと比べて目立たない地味な存在だと思います。しかし、今後のITを進めていく上で非常に重要な役割を果たします。そのためには、システム監査の重要性を世の中にもっとアピールし、認知度を高める必要があると思います。

近畿会だより

近畿地区待望の「システム監査実践セミナー」が実現(速報版)

この実践セミナーはいままでは関東地区で開催されていたこともあって、関西圏での開催が近畿会員よりかねてから強く望まれていたが、このほど実践研究会のご尽力により、5月13日、14日に新大阪近隣のビジネスホテルを会場として開催がようやく実現された。今回は近畿会員にとどまらず、東京、名古屋、広島からの参加者もあり19名6班にわかれ、監査実践スタイルの研修会がおこなわれ、近畿会の理事3名もサポート役として参加した。初日は講習スケジュール終了後に懇談会も開かれ、熱心な参加者により時をわすれて情報交換に話の花が咲いた。6名の本部講師団が2チームのわかれてモデル会社の担当役員や管理部長、OA委員等の配役を真に迫る演技でこなし、受講生がおこなう予備調査や本調査のヒヤリングも力のはいったものとなり、実践形式を多用した実りの多い研修会となった。今、システム監査人の実務能力の充実・向上が望まれるなか、会員にとって大変意義のある研修会であるが、実践形式を多用しているだけ講師陣の編成や参加人員の制約があり、開催規模としては1回20名程度の規模に



制約される。それだけに会員にとってありがたい貴重な企画でもあった。

このような企画は会員にとってシステム監査実践のスキルアップの絶好の機会であり、今後のシステム監査の普及や実践者の増大のためにこのような企画が増えることが強く望まれる。本部の実践研究会メンバーのみなさまのお骨折りに感謝したい。

詳細は次号で報告される予定である。

講師 団：実践研究会メンバー打矢、鈴木、
富山、沼野、前橋、吉田の諸氏
サポート：近畿会山田、石島、安本

主なスケジュール

1日目：

- 基本技法講義
- 演習課題説明
- モデル企業の監査計画、予備調査項目の検討
(グループ討議)
- 予備調査のインタビュー(グループごと実施)
- ロールプレイング方式
- 予備調査結果まとめ(グループ討議)
- 本調査質問検討(グループ討議)

2日目：

- 本調査のインタビュー(グループごとに実施)
- ロールプレイング方式
- 報告書作成(グループ討議)
- 監査報告会(グループ別に発表)

その他、近畿会活動の動向

●定例研究会の開催状況

1 定例研究会の開催状況

・その1

5月12日 今回のテーマは昨今、導入が積極的に行われているERPパッケージにつきまして「ERPパッケージにおけるシステム監査のポイント」

発表者 株式会社 千趣会
取締役情報システム部長
黒目 哲児 氏

・その2

国際セキュリティ標準の最新の動向について
(仮題)

発表者 富士通企画本部 企画部主席部長
田淵 治樹 氏

(1)日 時 6月23日(金)18:30~20:30

(2)場 所 日本ユニシス株 ユニシスプラザ
(新ダイビル1階北西側)

・その3(予定)

情報社会の情報法学にありかた(仮題)

木村哲也弁護士

(1)日 時 7月28日 会場は現在手配中

●第4回コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウムを後援します。

テーマ：「サイバー社会の防衛」

5月25日(木)から27(土)まで

白浜「コガノイベイホテル」で開催の予定

当協会代表として3日目荒川副会長が「国際セキュリティ評価基準」をテーマに研究発表します。

今回は300名が参加の予定。

●システム監査普及サービス活動：C社プロジェクトの動向

このプロジェクトスタート後リーダーの転勤という思わぬ事態も発生したが、後任の土出氏(富士通)のもと中国支部の安原氏等の参加も得て、一応4月で本調査を終え、目下報告書を作成中で6月に終了の予定である。詳細は別途報告を予定している。

(近畿会 安本、石島)

九州支部便り

No.307 行武 郁博

- 当協会HP九州支部ページに昨年発生した福岡水害についての報告書を掲載しています。昨年6月29日、福岡市は集中豪雨に見舞われ、折からの満潮と重なって、人命を含む大きな被害を蒙りました。この報告書は、公表された集中豪雨および水害の概況と通信、金融6社について実施した被害の状況、対策等についての調査結果を取りまとめたものです。季節は巡り、まもなく梅雨です。この報告書がいくらかでも水害の予防に役立てば幸いです。
- 地方紙(西日本新聞、4月20日付)に九州支部会員の赤塚和俊さんが紹介されました。記事によりますと、赤塚さんは、病気を克服され、現在、本業の公認会計士のほか、市民オンブズマン福岡事務局長や野生動物保護などのボランティア活動など幅広く多彩な社会活動をされています。また、今般、「NPO法人の税務」という著書を出版されました。今後とも更なるご活躍を期待致します。
- セキュリティ国際基準であるISO15408の研究が当協会でも開始されましたが、昨年暮れにその必要性を感じた経験(個人的な経験ですが)をしました。さる大手メーカーのウイルス対策ソフトを自宅のパソコンで使用していますが、昨年暮れでサポート打ち切りとなったので止むを得ず新バージョンのソフトを購入いたしました。インストール後、テストデータ(このデータをウイルスとして検知すればインストールは正常とのことです。70バイト程度でユーザーで打鍵作成可)でテストしたところウイルスとして検知されませんでした。インストールに異常はなく、テストデータは新、旧バージョンとも同一となっており、一時は、ソフトのバグではないかと疑ったのですが、調査結果は、私のテストデータ打鍵作成ミスとのことでした。そうすると、旧バージョンソフトでは、作成ミスしたテストデータを正常なテストデータと認識していたこととなります。今まで、本当にウイルス対策ソフトとして機能していたのだろうかという疑問や不安も起こります。メーカーの説明では、新バージョンで機能が強化されたとのことでしたが、このソフトに対する信頼は

一挙に揺らいでしまいました。しかし、それでもユーザーとしては、使用してゆかざるをえないという現実もあります。ソフトの効能書きやメーカーの知名度だけが判断材料のユーザーのためにも、ISO15408の必要性があると思われます。ISO15408の認証を受けたソフトであれば、セキュリティ機能について、PPやSTの内容がユーザーに理解しやすい形で公開、提供されるはずであり、EALで保証レベルが明示され、第三者による認証も行われることから、製品の機能等の透明性は格段と向上するはずで、専門的知識のないユーザーに対して、ISO15408は製品の信頼性判断に大いに寄与するはずであり、またぜひそうあって欲しいと思いました。

中国支部だより

No.387 安原 節男

当支部では、前々号の会報にも載せましたが、「判例にみるシステムづくりの留意点」について、(株)NTTデータ中国支社殿と共催で研修会を実施しました。

そして、現在、近畿会館で取り組まれているC社システム監査普及サービスに、藤原会員と私が参加させていただいていますが、このことについての藤原会員の感想等を寄稿して貰いました。

C社システム監査普及サービスに参加して

No.859 藤原 清司

C社システム監査普及サービスに参加して、はや数ヶ月が経過しようとしている。システム監査技術者試験に合格した後にSAAJに入会し、一年の月日が経とうとした時にこのチャンスが舞い込んできた。

メンバ募集の折りに、若輩ながら手を挙げた私を気持ち良く諸先輩方が迎えて下さったお陰で、現在システム監査の実務を経験させて戴いている。

実務を通じて感じていることは「システムの有効性を検証したい。これからどうすれば良いのか?」と言ったニーズは潜在的にどの企業にもあることを実感した。

今回の企業のトップもITに関しては実務者にお任せであるが、やはり気になる分野であるとのこと。トップインタビュー、実務者インタビューなどのプロセスを通じて、トップも徐々にではあるがITへの関心が高まってきているようである。

次に感じたことは、「机上の知識を生かすのはやはり実務経験である。チャレンジすれば何とかなる」と言うことである。

本業が金融担当SEの私にとってC社は全く異なる業種であるため、当初はかなり不安があった。しかしながら、今ではある程度不安も払拭できている。第一の理由は「システムの有効性」は業態が異なれど根幹の考え方は一緒であると認識したことである。

経営目標を達成するためにITは存在する。これは共通の物差しと考えられる。第二の理由は「三人寄れば文殊の知恵」ではないが、メンバーの得意とする分野が異なること、また経験が異なることが幸いし、オープンな意見交換が出来、新鮮な討議が出来ることである。

疑問等をメンバーにぶつけると自分の今まで思いもしなかった回答が出され自分自身のスキルアップにも役立っている。机上での知識を点とするとこれら一連の実務が点と点を結ぶ線となっている気がする。現在は現場インタビューを終えて、監査報告書の執筆に掛る段階である。未知の分野にまた一歩踏み込むことになるが、もう一踏ん張りである。

自分の今までのSE経験で得られたことと机上でのシステム監査技術を駆使して、C社殿に、「普及サービスをお願いして良かった」と言って戴けるような報告書としていきたいと思っている。

中部支部便り

No.124 原 善一郎

SAAJの皆さん、こんにちは
中部支部のご案内です。今回は、3月例会議事録、5月例会予定、7月の支部主催セミナーのご案内です。

なお、中部支部への連絡はSAAJ本部のメーリングリストで中部支部宛にメッセージを流して下さい。萬代支部長、中部支部役員がお返事をします。

<3月例会 議事録>

1. 日 時：平成12年3月18日(土)
15:00~17:00
2. 場 所：セントラルシステムズ 6F
3. 出席者(順不同、以下敬称略)：
萬代、山崎、植野、大野、片桐、澤、福田、杉野、関口、仲、中田、中村、森、若原、西脇、茨木、大庭、稲葉、田中、堀
4. 議 事
 - (1) 事務連絡 萬代支部長
 - (2) 年間テーマ発表「ビジネスからみた情報化」：
例会委員 仲さん
中村さん：見積手法
杉野さん：ネットワークセキュリティポリシーとシステム監査
 - (3) その他
ITSSPのCSO交流会岐阜地区の話
澤さん
ソフトウェアハウスG社より品質をテーマとしたシステム監査普及サービスの問い合わせがあり、4月訪問予定(澤、植野、仲)

<5月例会 予定>

- 日 時：平成12年5月20日(土) 14:50~16:50
場 所：岐阜県大垣市内
ソフトピアジャパンセンタービル
- 議 題：(1)事務連絡 萬代支部長
(2)年間テーマ
「ビジネスからみた情報化」
関口さん「XMLの現在と可用性について」
植野さん「情報化における文書管理」
(3)その他

<7月 支部主催セミナー>

- 日 時：平成12年7月26・27日(水・木)
場 所：岐阜県大垣市内
ソフトピアジャパンセンタービル
- 対 象：中小企業の経営者
テーマ：IT革命と経営者(予定)
セミナーの趣旨：SAAJ中部支部の社会貢献活動として行う。
- 内容は、企業経営者に経営戦略と情報戦略、ITのコンビネーションについて、具体的に説明する。
1998、1999年に引き続き、3回目のセミナーです。

「会員の薦めるHP」

No.124 原 善一郎

清水順夫さんのホームページ

<http://www.officekouhei.com/>

清水さんの幅広い活躍を垣間見る事ができます。ニフティの「情報処理大学」というフォーラムでも有名な方たちとのネットワークに、読者のあなたも参加するチャンスができるかも知れません。

その中で特筆すべきものは、「システムアナリスト連絡会」です。システム監査と並ぶシステムア

ナリストの合格者の団体です。新聞でも紹介されていますが、もうすぐ、協会へと脱皮します。情報処理技術者試験合格者が手を取り合って成長し、社会貢献していこうという趣旨の「情報処理技術者団体連合会」構想(じょうだんれん構想)にも繋がっています。

システムアナリスト連絡会のページ

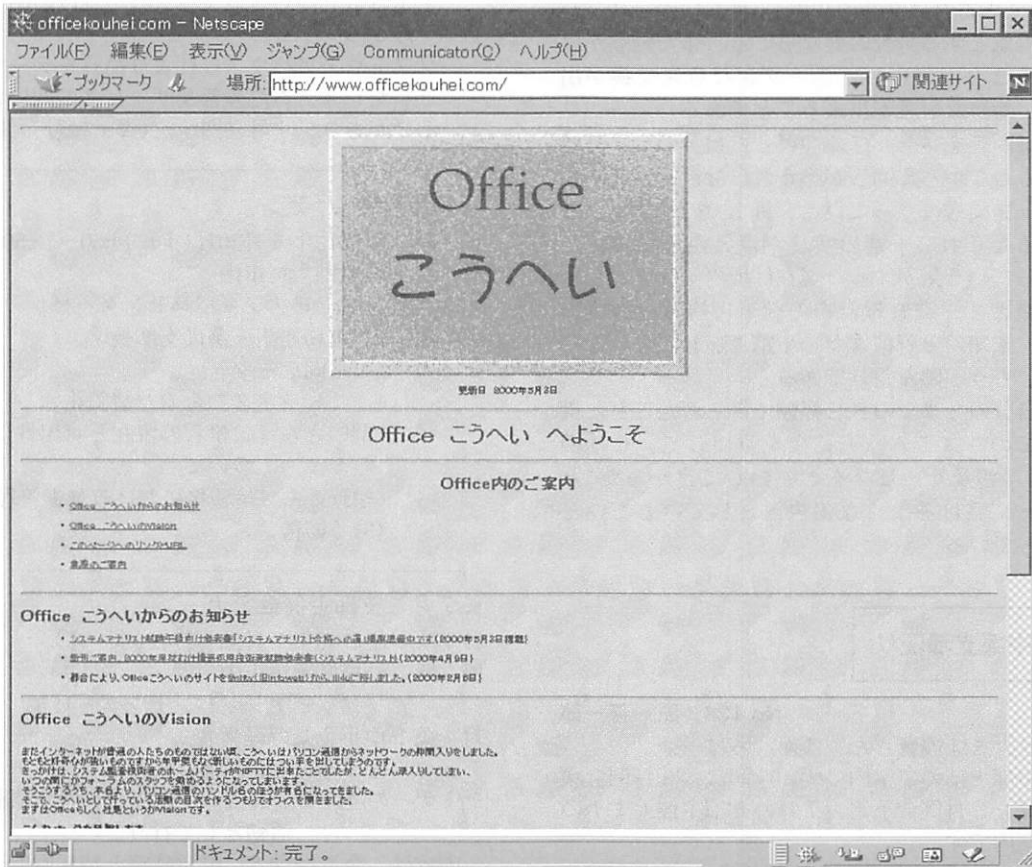
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~jsag/>

なお、システムアナリスト協会の設立総会は

・時期は 夏(7月?)頃

・場所は 東京

という案で進んでいます。現在、メーリングリストが主体で積極的に意見交換がなされています。ぜひ、ご覧下さい。



会員用メーリングリストの申込み方法が容易になりました。

SAAJ会員用メーリングリストは、月例会、研究会の案内や会員同士の情報交換に、運営しています。メーリングリストとは、一つのメールアドレスに発信すると、登録されているメンバー全員にメールが届く仕組みです。本会のメーリングリスト(saaaj@mla.nifty.ne.jp)は、現在、約200名が参加されています。今回、加入手続きを容易にしましたので、まだ参加されていないかたはぜひご参加ください。参加ご希望の方は、以下のとおりにメールを作成して送信してください。

また、すでに加入されているかたで、メールアドレスに変更がある場合は、新旧のアドレスを併記して、下記にメールを出してください。

メーリングリスト担当理事 岩崎 昭一

宛 先 owner-saaaj@mla.nifty.ne.jp

題 名 ML加入申込書

本 文 会員番号：

氏 名：

会 社 名：

電話番号：

連絡先住所(郵便番号を含む)：

加入メールアドレス：

新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属	
941	西原 慎二	(株)東洋情報システム	中部事業部
942	高見 忠之	セントラル・コンピューター・サービス(株)	経営企画部
943	桑田 英明	株式会社 ソーテック	内部監査室
944	岡田 秀一		
945	遠藤 竜一		
946	重松 輝彦		
947	梶川 明美		
948	大島 道夫	高砂熱学工業株式会社	情報システム部
949	古谷 元一		
950	高橋 正和		
951	中瀬 泰恵	アイ・エス・エス株式会社	国内技術部

編集後記

最近になってシステム監査を巡る環境がかなり変わってきたように感ずる。通産省からは自立した産業(職業)になれとか、監査基準とか監査人の認定は民間に任せる方向とか、急に勝手なことをいわれ、協会としてはこれ幸いと対応に躍起とならざるをえない状況になった。一方官公庁や金融等からシステム監査を仕事として受託するケースが出てきており、冗談まがいに落札したら手伝せて頂戴などと言っていたら、本当の話になってこれから約1年、家内にいい加減にしなと言われながら、お付き合いする羽目となってしまった。

今回寄稿頂いた方々の文章の端々からも、正にシステム監査の新時代を迎えつつあるという感を強くしているところである。
(富山記)

発行所	日本システム監査人協会	会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
発行人	橘和 尚道	三谷慶一郎 (株)NTTデータ経営研究所
事務局	〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-1-6 笹塚センタービル5F (株)産能コンサルティング内 TEL. 03(5350)9268 FAX. 03(5350)9269	TEL. 03(5467)6331 FAX. 03(5467)6332 QZG07732@nifty.ne.jp
ホームページ	http://www.saa.or.jp/	原田 奈美 日本アイ・ビー・エム(株) TEL. 03(5644)6431 FAX. 03(3664)4968 QZE10566@nifty.ne.jp
		富山 伸夫 (株)データ総研 TEL. 03(5695)1651 FAX. 03(5695)1656 GFF00037@nifty.ne.jp
		片寄早百合 横浜市総務局 TEL. 045(671)2118 FAX. 045(664)9386 HGA01347@nifty.ne.jp
		吉田 裕孝 三井物産(株) TEL. 03(3285)2058 FAX. 03(3285)9939 Hi.Yoshida@xm.mitsui.co.jp

※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします